

令和3年度 第2回 青森支部評議会の概要報告

開催日時	令和3年7月20日(火) 10:00~11:30
開催場所	ZOOMによるオンライン開催
出席評議員	秋田谷評議員、大坂評議員、小山田評議員、木村評議員、今評議員、高杉評議員、長根評議員、藤沼評議員、吉田評議員(五十音順)
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020(令和2)年度決算について 2. インセンティブ制度の見直しについて 3. 令和4年度支部保険者機能強化予算の策定に向けて 4. その他
議事概要 (主な意見等)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>議題1について、事務局より資料に基づき説明。</p> </div> <p>●2020(令和2)年度決算について</p> <p>【学識経験者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被保険者数の伸びが2019年度4.4%で2020年度0.9%となっているが、少なくなっている要因をお聞かせいただきたい。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年金機構で行っている適用事業所拡大により被扶養者が被保険者に移行している一方、昨年度の法律改正により「教育・学習支援業」並びに「公務」に属する臨時的任用職員等が地方公務員共済組合員となった影響や「その他の運輸業」「宿泊業」「飲食店」が対前年同月比で減少していることが大きく影響しており、青森支部においても同様の傾向があると考えている。 <p>【被保険者代表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収支差の全国平均分の按分算出について、単なる人口比なのか所得も含めてなのか。 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の総報酬を分母、各支部の総報酬を分子とした総報酬による按分となる。

議題2について、事務局より資料に基づき説明。

●インセンティブ制度の見直しについて

①後発医薬品の使用割合について

【学識経験者】

- ・国の目標が80%となっているが、未達成の支部は何支部あるのか。

(事務局)

- ・令和3年3月診療分での実績で未達成の支部は18支部ある。1番低い支部が徳島支部で73.8%、1番高い支部が沖縄支部で89.0%であり、青森支部は83.0%で全国8位の水準である。

【被保険者代表】

- ・後発医薬品の使用割合が着実に伸びているとのことだが、後発医薬品の使用については加入者の努力というよりは、医師や薬局が取り扱うかどうかの部分が非常に大きいと思うので、インセンティブとして重視する必要はないと考える。

②評価割合について

【事業主代表】

- ・現行の割合（実績6伸び率4）を定めた経緯についてお聞かせ願いたい。

(事務局)

- ・インセンティブ制度が導入された段階では今後も見直していくことを前提にまずは実績を重視するという考え方があったと記憶している。

【事業主代表】

- ・当初は一定の考えがあって実績を重視していたとのことだが、今も実績を重視してもおかしくはないと考える。伸び率を重視した場合にどのような影響があるのかあわせて提示いただかなければ確信をもってお話をすることができない。考えをまとめるに足りる情報があればありがたい。

(事務局)

- ・今後、評価割合のシミュレーションが示され、それを検証しながら検討を進めていくことにはなるが、国の成長戦略フォローアップに基づく検討事項で成果指標拡大や配分基準のメリハリ強化等について議論がされていることをご理解いただきたい。

【学識経験者】

- ・「予防・健康づくりの取組により一層努める」とのことだが、現状どの程度達成されているのか。

(事務局)

- ・健診の受診率ならびに特定保健指導の実施率について、昨年度は新型コロナウイルスの影響により目

標に達していないが健闘していると捉えている。

【学識経験者】

・伸び率を増やした場合、青森支部にとってプラスに働くのか。また考え方として、伸び率の評価割合を増やすということは、実績がまだ高くない支部にとっては他支部より実績が低くても伸び率が大きければ評価が高まるという理解でよいのか。

(事務局)

・伸び率重視となった場合は、現状、実績の低い支部が伸び率を伸ばしてくるによって、評価が上がってくるので、実績が低かった支部が実績を伸ばすと有利に働くこととなる。また、伸び率重視とした場合の詳しい検証はしていないが、現在、青森支部の実績は全国平均より高い水準にあることから若干不利に働くのではないかと考える。ただ、自支部の状況だけではなく、本来インセンティブ制度がどうあるべきかということを考えていかななくてはならないと考える。

【学識経験者】

・そういった考え方を重視するのであれば、予防や健康づくりの取組において支部の地域事情に差があるため、伸び率をもう少し重視した方が公平なのではないかと考える。原則的には伸び率を重視した方が全国的に公平な考え方とは思いますが、青森支部にとって不利に働くのであれば他の方法を考える理屈はあってもよいのではと考える。

(事務局)

・支部の置かれた立場によって、意見を反映していくことは当然のことと考える。

【被保険者代表】

・実績と伸び率の評価割合について、人口減少や高齢化率などを考えると青森支部の伸び率はあまり多く望めないのではと考える。急に実績4、伸び率6とするのではなく、まずは実績5、伸び率5として様子を見ていく必要もあるのではないかと考える。

③加算減算の効かせ方の具体的な見直しについて

【学識経験者】

・メリハリをつけるのか薄く広くか、具体的な話はあるのか。

(事務局)

・健保・共済でも取組の不十分な層にも広げるという中間見直しの考え方がある中で、全体の2/3に相当する32支部程度に広げてはという意見やメリハリをつけるために上位5、10支部に絞った方がよいのではという意見も出ている。

議題3について、事務局より資料に基づき説明。

●令和4年度支部保険者機能強化予算の策定に向けて

【事業主代表】

・高額療養費について実体験から話をすると、その業務に携わっている病院の事務の方にしっかり制度を理解し、説明できる体制を整えてもらうことが必要と考える。すべきところが確実に出来ていることが基本であると考ええる。

(事務局)

・高額療養費制度の一部である限度額適用認定証については、医療機関への訪問や文書での周知・広報をお願いしてきたが、高額療養費制度そのものの理解を深めるところまでには至っていなかったため、今後はさらに踏み込んで取り組んでいきたい。

【学識経験者】

・健診、保健指導の拡大、要治療者の医療機関への受診率を高めるためにアプローチを考えるうえで、受診しない理由がわからなければ、的確なアプローチが難しい。事業計画の中で「アンケート等により、加入者・事業主から直接意見を聞く・・・」といった取組があるので、健診の受診の有無や受けない場合の理由などを今後の取組に生かすために聞いてみるのもよいのではと考える。

(事務局)

・アンケートの実施や研修など様々な機会をとらえ、加入者の方の動向を調査し、健診受診拡大に結び付けていきたい。

【被保険者代表】

・後発医薬品の普及促進について、加入者本人だけでなく、医師や薬剤師に働きかけることも必要と考える。

(事務局)

・医療機関や薬局の訪問などいわゆる医療提供側の皆様にも後発医薬品の普及促進への取り組みを行っており、今年度はジェネリックセミナーの開催も予定しているため、こうした取り組みから広がっていけばと考えている。

【学識経験者】

・健診、保健指導、要治療者の受診率について、事業所別・業種別のデータはあるのか。そういったデータがなければ、どこの事業所、どの業種により強く働きかけた方がよいのかがわからない。

(事務局)

・データを把握し、分析している。ただ、事業所健診の結果データが協会けんぽへ提供されず、保健指導や要治療者への受診へのアプローチに結びついていないケースもあるので、提供いただけるようなア

アプローチも行っている。健康宣言をいただいている事業所には、事業所ごとにデータ化した健診結果を提供させていただいており、その中では業種ごとでどの位置にいるかがわかるようにして、事業所及び加入者の健診への意識高揚に活用しているところである。

【学識経験者】

- ・健診結果で要治療となり、医療機関への受診率が低い業種はどこか。

(事務局)

- ・事業所、加入者単位での把握はしているが、業種別でのデータ分析、集計までには至っていない。受診勧奨については事業所あてに行っているのが現状である。

議題4について、事務局より資料に基づき説明。

●その他

【被保険者代表】

- ・青森支部の1人当たりの入院外医療費が高くなっているが、その要因は診療費や検査代なのか、あるいは薬剤料が高くなった結果なのか。

(事務局)

- ・薬剤料を含めた1人当たりの入院外医療費は、受診率・1件当たり日数・1日当たり医療費により構成されており、青森支部はこの3つのうち特に受診率が全国平均より高い傾向にあることが、1人当たりの入院外医療費を高くする要因となっている。

以上

特 記 事 項

- ・傍聴者 デーリー東北新聞社
- ・次回は10月に開催予定